

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：13102  
 研究種目：若手研究  
 研究期間：2018～2019  
 課題番号：18K12839  
 研究課題名(和文) ミックスド・メソッド・アプローチによる産官学連携と地域クラスター形成に関する研究

研究課題名(英文) Study on industry-government-academia collaboration and regional cluster formation by mixed method approach

研究代表者  
 鈴木 信貴 (SUZUKI, Nobutaka)  
 長岡技術科学大学・工学研究科・准教授

研究者番号：70572832  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ミックスド・メソッド・アプローチにより地域における産官学連携活動とクラスター(産業集積)のメカニズムを分析することを目的とし、地方12地域及び地方地域と比較するため東京圏、関西圏、名古屋圏の三大都市圏でのフィールド調査を実施した。本研究で調査を実施した地方では、地域の経済活性化のために大学、行政機関、金融機関等の各組織が産官学連携活動、起業、地域クラスター形成の活動にそれぞれ熱心に取り組んでいた。しかし、地方ではこのような活動を積極的に進めれば進める程、ある時点で目的と手段の逆転が起こるなど、ある意味で逆機能ともいえる現象が生じ陥穽に陥ってしまうメカニズムもあることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
 現在、日本だけでなく世界各地で産官学連携活動のより一層の推進とそれに伴うクラスターを形成することが目指されており、経営学の分野においても重要な研究領域の一つとなっている。本研究は、地方でのフィールド調査を積み重ね現場の方々との対話、フィードバックを通して研究を進めてきたため、学術的な面だけでなく実務的な面でも意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aims at analyzing the mechanism of industry-government-academia collaboration activities and industrial clusters in the region by the mixed method. The field survey was conducted in 12 regional areas and in the three major metropolitan areas of Tokyo, Kansai and Nagoya for comparison. In the regions surveyed in this study, organizations such as universities, government agencies and financial institutions were enthusiastically engaged in industry-government-academia collaboration activities, entrepreneurship promotion and regional cluster formation activities in order to revitalize the local economy. However, this study implies that the more aggressively these activities are promoted in rural areas, the reverse of purpose and means may occur at a certain point, in some sense a phenomenon that can be said to be an inverse function occurs and there is also a mechanism that falls into a trap.

研究分野：経営学

キーワード：経営戦略論 技術経営論 産官学連携 地域クラスター ミックスド・メソッド・アプローチ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

現在、日本だけでなく世界各地で地域経済の活性化のために、産官学連携活動のより一層の推進とそれに伴う産業集積(クラスター)を形成することが目指されている。経営学分野においても、これまで地域でクラスターが形成される過程について研究が積み重ねられてきた(e.g. Saxenian, 1994; 金井, 2012, 福嶋, 2013, 山田, 2016)。

地域における産官学連携活動やクラスター形成のような広範かつ複雑な現象を分析するためには、多角的、統合的に研究を進める必要がある。定性研究と定量研究を組み合わせるトライアンギュレーションは以前から行われているが、近年ではより両研究を統合させたミックスド・メソッド・アプローチが研究方法として発展しつつある(Creswell and Creswell, 2018)。

本研究は、このミックスド・メソッド・アプローチに着目し、同研究法にて地域の産官学連携活動、クラスターの分析を実施することにより新たな知見が得られる可能性があるのではないかと考え、研究の企画を行った。

また、日本では、地方における人口減少及び高齢化に伴い、地方の経済活性化がより重要な課題となっている。ここでの地方とは、日本政府の定義に従い、東京圏、関西圏、名古屋圏の三大都市圏以外の地域を指す。都市圏は、ヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が豊富であり、産官学連携活動、起業、クラスター形成の面で有利である。それに対し、地方は都市圏に比べ経営資源が限定される。それでは、地方はどのように産官学連携活動を行い、起業や新規事業を支援し地域クラスターの形成を進めていけばよいのか。本研究は、合わせてこのような問題意識を持ち研究を企画した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、ミックスド・メソッド・アプローチにより、地域における産官学連携活動とクラスター形成のメカニズムを分析・解明することである。特に都市圏に比べ経営資源が限定される地方に焦点を当て、地方地域の産官学連携活動、クラスター形成に関連する新たな因果関係の同定・解明を目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、産官学連携、産業集積、ミックスド・メソッド・アプローチ等の文献レビューを行いながら、国内地方12地域及び比較のために東京、関西、名古屋の三大都市圏での調査を実施した。

国内地方で調査した地域は、北海道札幌市(バイオ・IT)、福島県会津若松市(IT)、新潟県新潟市(農業・機械)、長岡市(機械・エレクトロニクス)、三条市・燕市(金属製品製造・加工)、静岡県長泉町・沼津市(バイオ・機械)、浜松市(バイオ・エレクトロニクス)、愛知県大口町(機械)、徳島県徳島市(バイオ・LED)、福岡県北九州市(機械・エレクトロニクス)、鹿児島県鹿児島市・霧島市(農業・バイオ・機械)、沖縄県那覇市(バイオ・IT)の12地域である。( )内は、各地域で主に調査対象とした産業である。

調査対象とした地方は、その地方で産官学連携活動を行っている大学の状況、その地方での地域クラスター形成の状況及び取り組みなどから選択した。市の人口規模でいうと100万人規模から10万人規模まで幅を持たせている。

各地域の調査では、まず、関連資料の収集・分析を行い、次に現地を訪れ、大学、大学発ベンチャー、企業、行政機関、金融機関等を訪問し、インタビュー調査、フィールド調査、統計データの収集を実施した。各地域の調査では、産官学連携活動、起業、産業集積に関してだけでなく利益相反、知的財産等の制度面の調査も行った。調査で収集した資料、データは、質的データ分析ソフト、地理情報分析ソフト、統計分析ソフト等を用い、整理、分析を行った。

これらの調査と並行して、ミックスド・メソッド・アプローチや地理情報分析ソフトのワークショップに参加したり、JIMTOF(日本国際工作機械見本市)などの展示会に参加し関係者と意見交換を実施することでミックスド・メソッド・アプローチや産官学連携活動に関する知見を深めた。

### 4. 研究成果

本研究で調査、分析を実施した地方では、地域の経済活性化のために大学、行政機関、金融機関等の各組織が産官学連携活動、起業、地域クラスター形成の活動にそれぞれ熱心に取り組んでいた。しかし、地方ではこのような活動を積極的に進めれば進める程、ある時点で目的と手段の逆転が起こるなど、ある意味で逆機能ともいえる現象が生じ陥穽に陥ってしまうメカニズムもあることが示唆された。

#### <引用文献>

Creswell, J.W. and Creswell, J.D. (2018). *Research design: Quantitative, qualitative, and mixed methods approaches (5th Ed.)*, Thousand Oaks, CA: Sage.

Saxenian, A. (1994) *Regional Advantage: Culture and Competition in Silicon Valley and Route 128*, Cambridge: Harvard University Press.

福嶋路(2013)『ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ』東北大学出版会。

金井一頼(2012)「企業家活動と地域イノベーション: 企業家プラットフォームの意義」

『Venture review』 20:3-13.  
山田仁一郎 (2015) 『大学発ベンチャーの組織化と出口戦略』 中央経済社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木孝一・鈴木信貴	4. 巻 第34巻第3号
2. 論文標題 農業における多角化経営（6次産業化）の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究技術計画	6. 最初と最後の頁 315-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20801/jsrpim.34.3_315	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木信貴	4. 巻 第89集
2. 論文標題 東アジアリンクージと産業集積の再々生 新潟県中越地域の産業集積の事例分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経営学論集	6. 最初と最後の頁 (32) - 1~7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木信貴
2. 発表標題 地方における産官学連携活動、起業、地域クラスター形成の陥穽
3. 学会等名 日本経営学会第93回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木信貴
2. 発表標題 東アジアリンクージと産業集積の再々生 新潟県中越地域の産業集積の事例分析
3. 学会等名 日本経営学会第92回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木信貴
2. 発表標題 企業家による期間的ドミナント・ロジックの構築と組織設計
3. 学会等名 研究・イノベーション学会第33回年次学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Fukuzawa, M., Inamizu, N., Shintaku, J., Yokozawa, K., Suzuki, N.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 26
3. 書名 "The Nature of Surviving Japanese Factories in the Global Competition: An Empirical Analysis of Electrical and Electronics Factories", In Takahiro Fujimoto, Fumihiko Ikuine (Eds.), Industrial Competitiveness and Design Evolution.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----